

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年2月10日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691500138
法人名	社会福祉法人市比野福祉会
事業所名	ユニット型 特別養護老人ホーム翠泉苑
所在地	鹿児島県薩摩川内市樋脇町市比野3200番地118 (電話) 0996-38-1515
自己評価作成日	平成26年10月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成26年12月4日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者の意思及び人権、権利を尊重し常に、ご利用者の立場に立って施設サービスを提供し、ご利用者が有する能力に応じ、自立した日常生活を営む事ができるよう、日常上の生活リハビリやADL、IADLの能力に応じ、また、生活歴から理解されている事や出来る事が、継続して生活の中で行っていけるように、多職種間で情報共有及び連携を行い支援します。

また可能な限り利用者の居宅における生活への復帰を意識し、従来型で生活されておられるご利用者との、生花クラブや家族会、夏祭り、敬老会、クリスマス忘年会等といった行事を通して交流の場を図ったり、ふるさと巡りや買い物といった外出支援、地域行事への積極的な参加を促し、地域住民との交流等、生活の中に在宅への意識と楽しみが見つけれられる様に支援します。ご家族へも密な連絡・相談を行い、ご利用者、ご家族それぞれが、孤立感無くユニット型での生活が継続していけるように、信頼関係を構築し、共同で支援を行います。

状態変化時や緊急時、終末期には最寄の市比野記念病院主治医と密な連携をとりながら、対応を行い、事務長・相談員・管理栄養士・看護師・介護職員、多職種協働で、ご利用者、ご家族を最大限支援します。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○静かな住宅地の高台に、特別養護老人ホーム(従来型)やデイサービスセンター等とつながって建設されている。木をふんだんに使った建物はとても落ち着いた風合いをしている。運営推進会議や夏祭り・敬老会等の大きな行事や避難訓練などを、併設施設と協力して運営している。協力医療機関との連携も緊密で、十分な支援体制も整い、利用者や家族からの信頼は厚いものがある。

○地域との交流も非常に活発であり、地域の行事への参加とともに、併設の施設全体で実施する夏祭りや敬老会、クリスマス忘年会等にご家族や地域住民の方々に参加して頂いている。また、近隣の散歩や買い物、ふるさと巡り等で出会う地域の方々とも親しく挨拶や会話を交わしている。実習生やボランティアも定期的に受け入れるなど、地域に溶け込んだ運営を目指している。

○介護計画は利用者やご家族からの意向や希望を聞き取り、主治医の意見はもとより、多くの職種の職員と十分に話し合い、ケアの課題も明確にして、わかりやすく細やかなものを作成して日々のケアに活かしている。

○管理者自身が職員とのコミュニケーションを大切にしており、日頃より話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、「気づきメモ」を活用して職員の声を収集するなどの工夫にも努め業務改善やサービス向上に反映させている。

○職員は利用者の食の楽しみを充実させるために大きな関心を寄せ、食器はすべて陶器に統一されており、旬の食材を活用した手作りの食事とデザートを提供し、クリスマスや誕生会等の特別メニュー、ソーメン流し等の外食、弁当持参の花見など、利用者の楽しみにつながる工夫も行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型介護老人福祉施設開設時に、属する全職員で会議を実施し、地域密着に適した事業所理念を全員合意のもと掲げ、毎日の朝礼時に発声し共有。	事業所開設時に職員全員で話し合い作成した理念を掲げ、また、年間の目標も設定して利用者が地域との交流の中で在宅への意識と生きがいのある自立した暮らしができ、楽しみが持てるように支援に取り組んでいる。理念は掲示して朝礼で唱和し、職員会議等でもその意義を確認しながら理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者の状態や気分を考慮しながら、晴天時には地域への苑外散歩やふるさと巡りの実施。毎年翠泉苑全体で夏祭りも行い、地域の方々も多数参加して頂いている。	地域の祭りを始めとする行事には積極的に参加しており、全体で実施する夏祭りや敬老会、クリスマス忘年会等にご家族や地域住民の方々に参加して頂くとともに、実習生やボランティアも積極的に受け入れ日頃から交流を図っている。また、近隣の散歩や買い物、ふるさと巡り等で出会う地域の方々とも親しく挨拶や会話を交わしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ご家族等の面会時に、相談があった際には、適切な知識と技術の提供を実施。その他にも地域行事や苑内行事で相談等があった際には、同様に知識及び技術の提供を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	期間内で行った活動報告や支援報告、ご利用者の状態変化や、各専門職からの支援報告、施設内研究発表等を報告し、その都度質問や感想等を頂き、頂いた意見を再検討し、サービス向上に繋げている。	会議は家族や地域住民・行政の職員・関連施設の職員等が参加して定期的で開催されている。事業所の現況報告や各専門職からの支援報告、施設内の自立支援に向けた研究発表の他、行事や課題等について活発に意見交換が行われている。これらは職員会議等でも再度検討され、具体的に業務改善や日々のサービス向上に反映させており、会議を有意義なものにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者には、入所判定会や運営推進会議の委員にもなっている。また、利用者の入退所時等の事務手続き等に訪問して指導を頂いている。	市担当者には訪問や電話を通じて、入退所や認定更新の手続き等の相談に助言・対応頂くなど連携を図りサービスの質向上に活かしている。また、入所判定会及び運営推進委員会の委員も務めて頂き、具体的に利用者の暮らし方やニーズもご理解いただくなど協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月の職員会議での研修発表や業務改善会議等で、ユニット型職員への周知を行っている。安全対策委員会もユニット型職員が属しており、2カ月に一度従来型との合同委員会会議を開催し、身体拘束を行わない為のケアをユニット型にも周知徹底している。	併設の関連施設の職員とも十分に連携しながら、居室や玄関等の施錠は行わないケアに取り組んでいる。言葉による拘束の防止を含む身体拘束については、毎月の職員会議や日々の申し送りで話し合うとともに、安全対策委員会や関連する研修の充実を通じて理解を深め、ケアへの反映を図っている。また、近隣の方々とは日頃の散歩や買い物の際の挨拶や会話を通じて、見守りや声かけをしてもらえるような関係が築かれている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議で虐待に関する研修があった際には、発表してもらい、全職員で周知。安全対策委員会や権利擁護委員会の開催を通し、協議の内容を文章化し、全職員へ向けて発信し、理解を得て防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年に一回必ず権利擁護に関する研修を実施。他研修で得た知識を職員会議で発表し、それらの情報を踏まえて権利擁護委員会で協議を行い、内容を文章化し全職員へ発信。職員会議後に職員の話し合いで、権利擁護についての話し合いを、状況に応じて実施。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入退所時は相談員が必ず説明を実施。ご本人、ご家族が納得されるまで、時間をかけ丁寧な説明を行っている。改定等の際には、面会時や文書送付、年に一度の家族会を通し、理解・納得を得られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情への対応に関しては、行政への連絡先等が記載してある相談苦情ポスターの掲示や重要事項説明書で説明。また、意見箱の設置や、家族会での満足度調査（アンケート）の配布、その他面会時等での声掛けを通し、意見を集約している。	職員は日頃の利用者との関わりから思いや希望をくみ取るように努め、ご家族とは主に来訪時に積極的に声かけして意見を頂くようにしている。また、意見箱を設置し、家族会では満足度に関するアンケート用紙もお配りするなど、意見や要望を表しやすいような工夫も感じられる。これらはユニット職員会議や申し送りノート等で職員全員で共有を図り、必要な対応を話し合い、速やかに本人や家族に報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の職員会議で発言の場や、気づきメモ（匿名記入）、日々の声掛けや信頼関係の中で、意見や提案を受け入れ、考慮し、適切に反映している。	職員の意見や提案は、毎月の職員会議、また、日常のケアの中や休憩時間等に聞き取り、特に利用者のケアに関しては十分に話し合っている。管理者自身が日頃より話しやすい雰囲気づくりに努めて声かけも頻繁に行い、また、「気づきメモ」を活用して職員の声を収集するなどの工夫にも努め業務改善やサービス向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	新規採用者は、早い段階で、勤務状況・職場への適応状況等を報告、他職員は、年1回の改定時又は随時評価を行い、職員の異動や給与等に反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年度初めに多くの職員が研修に参加できるように、研修計画を作成し、参加して頂いている。外部の研修のほか、法人内部の研修へも積極的に参加を行い、全職員の知識・技術の底上げを行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>各支部専門職研修への積極的な参加や地域連携会議への参加、研修後の交流会を通して、同業者との交流の機会の場を作り、情報交換を行いながらサービスの質の向上へ繋がるように参加して頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時点で初めに本人・家族を交えたサービス担当者会議を開催。その中で意向の聞き取りや要望を受取、反映している。また、日々の生活の中においても、信頼関係の構築を意識し、適切な知識でコミュニケーションを実施。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、入所時点でサービス担当者会議を実施。ご家族の意見や意向、要望を受取り、その内容を反映するよう努めている。また家族会や面会時等で、直接話し、要望等を受け入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議にて、生活歴や状態等の把握を行い、それらの情報をもとに、ご本人、ご家族、多職種間で協議を行い、全員が納得できる支援の合意に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の関わり合いの中で、表情の観察や声掛けを通じた不安の発見、個別ケアを通し、孤独感を感じない密接な信頼関係の構築に努め、孤立感の感じる事の無い様に、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時に、ご家族へ報告を行い、介助が必要な場合には介助を行って頂いたり、外出支援を行って頂く等、都度相談を行いながら、本人と家族、家族と職員の関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事への参加や、外出支援の中でふるさと巡り、翠泉苑夏祭りや敬老会を通して、家族や地域の方々、馴染みの方々とのふれあいの場を提供し、これまでの生活の関係性を断ち切らぬ様に支援している。	利用開始時の聞き取りのほか、病院や施設からの情報も含めて、これまでの暮らしの把握に努め支援に活用している。地域行事への参加やふるさと巡り、施設全体の夏祭り等の際に、家族や地域の方々など馴染みの方々とのふれあいの場を設けることや、友人・知人の来訪時の支援、電話や手紙の取次ぎなど丁寧な対応に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶会への参加や誕生日会、地域行事への参加等を通して、利用者同士でも交流が図れるように都度、状況に応じ職員も介入しながら、関係作りを行っている。ホールでの過ごし方へも目を向け、座席配置も考慮。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人やご家族より相談があった場合には、丁寧に情報の提供や相談援助を実施。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、信頼関係の構築に努め、訴え時や声掛けを通して、意向の把握に努めている。入所時には、本人、家族を交えた多職種参加の担当者会議を実施。	利用開始時の多くの職種の職員が参加する担当者会議で幅広く情報を収集するとともに、日々の関わりを通して言葉や表情などから、利用者の思いや意向の把握に努めて信頼関係を築くよう取り組んでいる。内容は職員会議や申し送り等で共有を図り、必要な対応を話し合い利用者本位の支援に結び付くよう努力を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の病院や施設で得られた情報の提供をお願いしたり、ご本人、ご家族との面談を通じて、生活環境やサービスの経過について情報の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の情報収集やコミュニケーション、日常生活の過ごされ方等を職員が観察し、業務改善会議での情報交換や、ノートの活用、多職種間での相談、報告を通し、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー作成のケアプラン作成時の担当者会議を通し、意見の交換や多職種間での連携、現状に即せる計画が作成できるように注意し、ケアプランにて反映。	サービス担当者会議には、利用者や家族を含めて看護職や栄養士などの多くの職種の職員が参加して十分な話し合いのもと情報の共有が図られている。主治医の意見はもとより、変化する利用者や家族の意向も日頃から把握に努め、職員全員の意見やアイデアを反映した、また、現状に即した非常に細やかなわかりやすい介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご利用者毎にそれぞれ台帳を作成し、介護日誌にて気づきや実践結果等を記入している。共有しやすいように、全員分の介護支援経過記録を、1冊に1枚ずつまとめ、支援や生活の流れが把握できるように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活の中で、何か新たなニーズが発生した場合には、多職種間での情報共有を行い、ご家族と相談しながら、家族を巻き込んだサービスの提供に努めている。(外出支援や地域行事参加)		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の散歩を行ったり、地域行事への参加、苑主催の行事を通し、地域と入所者の繋がりが、途絶えぬ様に、支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご家族と相談し、利便性から協力医療機関の病院を紹介するが、それ以外をご希望される場合には、馴染みの関係を築くために、かかりつけ医でも受診を行って頂いている。	利用前の受診の経過把握に基づき、協力医療機関を始めとして、本人や家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診を適切に支援している。利用者の状況に応じて対応できるように、日々の観察は看護職員が介護職員と連携しながら細かく行い、医師や家族とも適切に情報交換を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニット型に属する看護職員が勤務している為、看護職員が日々の生活の流れの観察や介護職員からの情報提供、状態変化に応じた対応についての話し合い、状況に応じて病院受診等、密な連携、支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の主治医とは、往診時や受診時等で必ず顔を合わせ、関係作りに努めている。また病院の地域連携相談室や病院職員の方々とも、情報交換や相談を行い、状態の把握を実施。退院時には迅速な対応が出来るように整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、緊急時対応及び終末期の対応について、書面にて説明を行い、書面で同意を頂いている。またここで頂けた同意書の内容に関しては、必ず関係職員で共有を行い、必要時に適切な対応が出来るように努めている。	契約時に緊急時及び終末期の対応については「看取りに関する指針」で説明し同意を得ている。また、日々の暮らしの中で入院や医療の必要性が生じた場合などにも説明を丁寧に繰り返し行うことや、本人や家族の希望に応じて、関連病院の医師や看護師を始めとした多職種の職員とも連携して適切に対応が取れるように体制を築いている。職員の役割も明確にされ、関連する職員教育や必要な設備の充実も図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備にて、全職員が目を通すほか、従来型との勉強会を通し、機能訓練指導員による実演指導や、看護師による応急手当、緊急時に対応方法について、他研修等で学んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日頃より消火器や防火扉の位置確認、年に昼間想定と夜間想定 of 災害訓練を消防署指導のもと、災害時想定で実施し、講評を受けて内容を記録し、学んだ内容を年数と共に着実に経験として積んできている。	年に数回、消防署の協力のもと、夜間を含めた避難訓練を、併設の施設と共に実施している。また、関連するマニュアルの整備とともに、普段より緊急救命訓練を始めとした研修や消火器・防火扉・避難経路等の確認点検も適切に実施している。スプリンクラー・自動通報装置等の設置や食料・飲料水・備品等の準備も十分なされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニット型での理念を通し、尊厳や権利擁護を意識した行動、発言に注意している。また日々の職員会議での研修発表や、尊厳、権利擁護に関する研修を通して、全職員が繰り返し学べる機会を多く持つように参加している。	接遇や権利擁護等の研修の充実を図り、職員会議や日々の申し送り等を通じて方法を共有して、利用者の尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応の防止に努めている。また、個人記録の保管や居室の保護などにも、利用者の誇りやプライバシーの確保に適切に配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所されているご利用者の重度化があり、自己決定が難しい環境ではあるが、生活歴や表情の観察、介助前には必ず声掛けを行い、思いや自己決定が、なるべる表出できるように支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度化に伴う自己決定が難しい状況もあり、その方の生活歴や表情の観察、ご家族の意見や相談、情報の提供を適宜行ってもらいながら、なるべくその方の生活に沿った支援が行えるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎日の整容を居室内にて必ず行った後、ホール誘導を実施。また地域行事への参加や外出支援時等には、おしゃれな服へ着替えて頂き、身だしなみを整えた後、参加して頂ける様に支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士と相談しながら、嗜好や咀嚼能力に沿った食事の提供を実施。毎食後に出来る方に限って食器の下膳を行って頂き、生活感を感じて頂ける様に共同で実施している。	管理栄養士とともに利用者の食事量や水分量・栄養バランスにも配慮しながら、旬の野菜を活用して希望にも配慮した食事提供に努めている。利用者の能力に応じて菜園の野菜の収穫や食事の後片付けなども手伝って頂き、正月やクリスマス・誕生会等の特別メニュー、ソーメン流しやバイキング等の外食、弁当持参の花見など、利用者の楽しみにつながる工夫も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と相談を行いながら、嗜好や咀嚼能力、食事量や栄養バランスに沿った個別に応じた食事の提供を行っている。水分量に関しても1日最低1200ccは摂って頂ける様声掛けを通し、水分の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	重度化に伴い、支援が必要な方に関しては、口腔用ウェットティッシュの使用やスポンジの活用、歯科受診にて口腔内状況の清潔保持及び改善。口腔ケアが出来る方に関しては、見守りのもと、歯ブラシを使用し行って頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	立位が可能な方に関しては、トイレ誘導を行い残存機能の維持に努めている。全ご利用者の排泄チェックを作成し、排泄パターンを把握したうえで、ご利用者の状態に合わせたトイレ誘導の実施を行っている。	排泄チェック表の活用や個々に合った声かけ誘導を心がけ、不安や羞恥心、また、残存機能の維持にも配慮しながら生活リハビリ等の工夫も行い、排泄の自立に向けた支援を適切に行っている。これまでの生活習慣に沿った対応となるように、関係職員が十分に話し合い、ケアプランにも細かく組み込んで支援に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量を必要用紙に記入を行い、摂取量の把握に努める。また、苑内でのレクリエーションや地域行事、外出支援等に参加して頂き、日中の活動量を意識した支援を行い、医務と協力をしながら、予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ご本人やご家族から、入浴の希望があった際には、その都度時間帯に合わせた入浴や足浴の実施を行っている。入浴はユニット別で個浴を行い、リラックスされた環境で入浴が行えるように配慮している。	本人やご家族とも話し合いながら、安全面や健康状態にも配慮して、足浴や清拭への変更も含めて可能な限り希望に沿った入浴支援となるように努めている。リラックスして入浴して頂けるようにコミュニケーションも十分に図りながら、温泉を安心して楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、ご希望や要望に沿った生活を行って頂ける様、適宜コミュニケーションを行い、生活リズムに配慮。離床支援も行い、状況に応じて、外出支援やレクへの参加を促している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬の効果と副作用を、全ご利用者それぞれに用紙として管理し、各ユニット別で閲覧できる場所に管理している。状態変化時には、医務と連携し、日誌に記入し、容態に応じてご家族へ報告。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を全職員が確認し、ご家族等からの情報収集も行いながら、中庭での園芸やふるさと巡り、嗜好品をご家族から提供して頂くことや、外出支援を促し、楽しみが持てるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族から外出、外泊の要請があった場合には、身だしなみを整え、情報を提供した上で許可している。ご利用者からの希望も日々のコミュニケーションの中で把握し、地域行事への参加やふるさと巡り等を、状況に応じて実施している。	日頃の暮らしの中で利用者とのふれあいを大切にして希望の把握に努め、必要に応じて実習生やボランティアの協力も仰ぎながら近隣の散歩やドライブ、ふるさと巡り、地域の行事への参加を積極的に支援している。また、年に数回は初詣や季節の花見、ぶどう狩り、ソーメン流し等の外食など、季節に合った外出支援とともに、ご家族の協力も頂きながらの外食や外泊も勧め、可能な限り楽しんで頂くように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が希望された場合には、個別で管理のもと金銭を所持して頂き、必要に応じて使って頂いている。預り時や使用時には都度、金銭の使用経過を記録し、ご本人にも閲覧して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	訴えやご希望に応じて、電話を行って頂ける様職員一同理解し、業務にあたっている。手紙等の閲覧文書が届いた際には、ご本人へ御見せし、ご本人様のほうで保管して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木を多く使った建物の構造もあり、安らぎある空間の提供が行えていると思う。共用の空間では、季節やイベントに応じて、飾り付けを一緒に行ったり、空調設備を適宜活用し、気温や湿度に応じて、生活のしやすい設定で対応を行っている。	全体にゆったりとした昔ながらの木の素材を多く使った建物であり、共用空間は天窓もあり明るく、季節感のある花飾りや貼り絵などが配置されて、家庭で過ごすようにゆったりとくつろげるように工夫されている。広いテラスや和室のスペースもあり、空調にも細やかな配慮がなされて居心地の良い環境になっている。また、園庭にも木々が配置されて落ち着いた雰囲気づくりの工夫が感じられる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日々の生活観察を行いながら、ホール内に設置してあるテーブル位置の適宜変更や、ご希望時や訴え時には、各ユニットに設置してあるタタミ部屋の活用を行い、気分や思いに応じた居場所の工夫を実施している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時点で自由に居室内の環境を、ご本人に合わせたものに変更してもらって良い事を説明し、随時要望や希望に応じて、居心地良く過ごして頂ける様に環境に配慮した空間の提供を行っている。	居室は南向きで明るく、広い窓からは自然がのぞめ季節を感じながら過ごせるようになっている。本人やご家族と話し合いながら、利用者が家庭と同じように暮らしやすい部屋作りを適切に支援している。また、日常の生活についての利用者や家族からの希望にも、できる限り柔軟に対応できるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の状態観察や毎月の業務改善会議を通して、ご利用者の状況に応じた支援の方法について協議を実施。後、ご本人様の理解を得ながら、できること等を行って頂ける様に、支援を実施している。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない